

宮古の風



～ 新しい風は東から ～

先日、三陸鉄道に乗車しました。乗客との会話、ゆっくりと流れる街並みや自然の風景に、宮古地区のよさを改めて感じ、とても心が癒されました。

文責:村上 稔

宮古地区「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム

7月5日(水)、宮古市民文化会館において、令和5年度宮古地区「地域とともにある学校づくり」推進フォーラムを開催しました。

昨年度から宮古管内全市町村でコミュニティ・スクール(以下CS)が導入されたことを受けて、本フォーラムでは、山田町立豊間根小学校副校長・熊澤裕樹氏、PTA会長・阿部智幸氏、岩泉町立小川中学校副校長・本多準一郎氏、元PTA副会長・竹花千枝美氏に、学校・PTAそれぞれの立場から、CSの取組について、実践発表していただきました。

パネルディスカッションでは、文部科学省CSマイスター・野澤令照氏をコーディネーターに迎え、CSや地域学校協働活動の推進について、4名の実践発表者とディスカッションを行い、会場の参加者に向けて理解を深められるように進行いただきました。まとめとして、野澤氏から、CSを推進するうえで大事なことは、「子どもを真ん中にして、大人がチームになること」と話していただきました。

発表やパネルディスカッションの間には、参加者同士で感想や意見を交換する時間を設けましたが、どの参加者も主体的に交流され、学びを深めていただきました。以下に、参加者の感想の一部を紹介いたします。

○ 実践発表

- ・学校や地域の実情、願いに沿って活動が展開されているという点が参考になった。具体的な実践例も示していただいたので、校内で紹介したい。
- ・当中学校区の実践には、地域について知る活動、地域に貢献できる活動という視点が少ないことに気付かされた。中学校区で話し合う時間もでき、今後の具体的な活動の方向性を見出すことができた。
- ・学校運営協議会の方々の意見をもとに、教育活動の具現化が図られた実践から、子どもを中心に捉えた教育活動の質の高まりにもつながっていると感じた。熟議の位置づけも大切であるが、育てたい子ども像が共有されていることで、自然と声が届けられる・声が届く関係づくりを大切にしていきたい。



○ パネルディスカッション

- ・学校でも地域においても、子どもたちは貴重な存在である。学校と地域が手を携えながら進むこと、お互いに思っていることや考えていることを遠慮しないで話し合えるような関係ができるとよい。CSがスタートしたばかりなので、これから関係性を築いていきたい。
- ・学校と地域がつながるよさについて、パネリストの方々の思いをたくさん伺うことができ、参考になった。学校側の姿勢として、運営協議会の方々に当事者意識をもってもらえるように、働きかけていきたい。
- ・学校と地域が、共に教育活動を進めていくことで、支えてくれる地域の方々への感謝の気持ちをもつとともに、地域貢献できる人材につながっていくと感じた。
- ・立場や年齢の異なる様々な方々が、育てたい子ども像を話し合うことで、新たな気づきが生まれる。地域の教育資源も積極的に活用したいと感じた。

○ 全体

- ・発表した2校の実践とパネルディスカッションを通して、各校のよさや課題を知り、自校の取組を振り返ることができた。
- ・今までは、学校運営協議会に関わることへの負担感が強かったが、「学校と地域をつなぐやりがいのある仕事」であると考えが変化した。
- ・学校と地域が思いを一つにすることが大切なので、学校の声、子ども達の姿、地域の声、人材を上手くつなげることに挑戦したい。



☆予告☆9月25日(月)に、地域学校協働活動推進員(コーディネーター)地区別研修講座を予定しております。コーディネーターの皆様や教職員の方々、ぜひご参加ください。

60(ロクマル)プラスプロジェクト計画について

今年度は、各学校で60(ロクマル)プラスプロジェクトの推進計画を作成し、より明確な取組を推進していただいております。推進する上では、運動習慣、生活習慣、食習慣の形成に係る各担当者を中心とした校内全体での連携した取組がより重要となります。是非、担当者間で1学期の振り返りの時間を設け、その内容を校内全体でも共有し、2学期以降のよりよい取組につなげてほしいと思います。下の表に各学校の主な計画についてまとめました。

(管内の小学校の推進計画から抜粋)

目標 (目指すこどもの姿)	運動習慣 課題◆/改善プラン◎	生活習慣 課題◆/改善プラン◎	食習慣 課題◆/改善プラン◎	チャレンジカード取組
○「自分から」1日 60分以上運動する児童 ○生活リズムを整え、 進んで運動しようとする児童 ○外遊びや運動を好み、 丈夫な体をもつ児童を 目指します！ ○肥満傾向の児童の割合 減少(20%以下)	◆運動習慣の有無の二極化 ◆登下校の際に自家用車で 通学する児童が多い ◆休日の取組への意欲喚起 ◆運動習慣の形成不足 ◆体力テストから走・跳が弱い ◎関連委員会と連携 ◎体育科の学習に予備的運 動の時間を設定し継続的 に行う ◎授業での運動量50%以上 ◎全校外遊びの日の設定 ◎徒歩通学の推進(通信等)	◆メディア依存による睡眠 時間不足 ◆寝不足により頭痛を訴え る児童が多い ◆朝排便の習慣がなく、腹 痛を訴える児童が多い ◎年3回の生活習慣リズム点検 ◎小中合同のメディアチャ レンジの実施、講演会の 実施 ◎学期ごとのチャレンジカ ードの活用 ◎入学時からの朝排便の習 慣づくり ◎生活習慣アンケートの実施	◆肥満傾向児童への個別指導 ◆食の細い児童が多い ◆噛むことへの意識が低い ◆朝食を食べてこない ◆間食が多い児童がいる、 早食いの児童がいる ◎かみかみチャレンジ ◎かみかみソングの作成 ◎栄養教諭との連携による 食に関する授業 ◎委員会活動による残食調 べ等 ◎昼食後の歯磨きの徹底を 環境委員会で啓発	・栄養教諭による給食時間の 訪問と合わせて、かみかみ チャレンジを行う ・ロードレース大会に向けた チャレンジランニングタ イムと併行した取組 ・夏、秋、冬の強化期間に、 運動・生活に対する児童と 保護者の意識向上を図る。 ・児童の運動量が落ちそうな 時期にチャレンジカード を配付し運動に対する意 欲付けを図る。

(管内の中学校の推進計画から抜粋)

目標 (目指すこどもの姿)	運動習慣 課題◆/改善プラン◎	生活習慣 課題◆/改善プラン◎	食習慣 課題◆/改善プラン◎	チャレンジカード取組
○主体的に運動に親し むことのできる運動 好きな生徒 ○健康の保持増進のた めに自ら考え行動で きる生徒 ○自分の健康に関心を 持ち、生活習慣の改 善に向けて行動する 生徒 ○心身の健康の維持に 必要な知識と各種運 動の基本的技能が身 に付いた生徒	◆運動をする生徒とそう ではない生徒の二極化 ◆文化部の運動習慣 ◆全身持久力、筋持久力の 数値が低い ◆スクールバス登校による 運動量の減少、日常の運 動量に個人差が大きい ◎生徒の活動量を意識した 授業改善 ◎体力テストの結果を基に する効果的なICTの活用 ◎休業中の運動について保 護者への啓蒙 ◎冬季合同トレーニングに よる体力づくり	◆ゲーム・スマートフォン 使用による睡眠不足から の生活習慣の乱れ ◆長期休業中の生活習慣の 乱れ ◆朝食欠食率の増加、メ ディアコントロール力がつ いていない ◎メディアコントロールを 中心とした生活時間の自 己管理 ◎掲示物の工夫 ◎生徒保健委員会による睡 眠啓発運動	◆噛むことへの意識が低い。 ◆中等度、高度肥満生徒が 見られる ◆給食の残食が多い ◆朝食欠食 ◆貧血、歯の健康 ◆毎日甘いものを間食して いる。 ◎保健だよりによる啓発 ◎長期休業前の家庭面談 ◎栄養教諭との連携による 食に関する授業 ◎InBody(体成分分析装 置)を活用し、学期末の健 康相談にて家庭との連携 を図る	・夏休みの宿題として本校生 徒の課題を踏まえた資料 を参考に各自で実施 ・体づくり運動の学習と連動 させ、各学年の内容に応じ た実施期間を設定 ・冬休み1・2年生は部活動 前トレーニングで実施 3年生は、体づくり運動 の学習で運動メニューを 作成し実施。 ・スマートフォン、タブ レットの使用時間に関する ことの項目を設定し、生 活リズムを整えるために 活用する。

夏休み中の事故の未然防止に向けて

長期休業中は、普段とは違う生活から、安全面への意識を高めていくことが重要です。また、熱中症による事故も心配されます。2学期の始業式に全員元気な姿で会えるよう指導をお願いします。

【生活について】

- ◎外出時には、家族に行き先や帰宅時間を告げるよう指導するとともに、不要不急の外出及び子どもの一人遊びや単独での外出は避けるよう指導する。
- ◎不審者に遭遇した場合は、大声を出してまわりに助けを求め、「子ども110番の家」等に避難することや直ちに警察や学校に連絡するよう指導する。
- ◎インターネット上のいじめや誹謗中傷の書き込みの防止、各種SNSや不審なアプリ等の利用に伴う危険性、長時間に及ぶゲーム機や情報通信機器使用の問題点についての指導を十分に行う。(「児童生徒向け情報モラル教育指導資料(わんこ情報室)」参照)

【部活動等の活動について】

夏休み中の部活動では、熱中症による事故が毎年報告されます。下記事例からの教訓をもとに適切な指導をお願いします。

教訓①：熱中症を引き起こす3要因(環境・からだ・行動)が関わりあうと熱中症は起こる。

【事例①部活動中の事故】気温32℃、湿度61%(環境)、肥満傾向(からだ)、高校3年の男子がアメリカンフットボール部の部活動で練習試合にフル出場し、ベンチで倒れ、意識なし。2日後に死亡した。

教訓②：それほど気温が高なくても湿度が高い日は注意

【事例②宿泊学習で起きた事故】中学2年生の男子が宿泊学習で登山中に熱中症になり、死亡した。当日は気温27.2℃、湿度70%であった。

「学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引き」より